



〒690-0046
松江市乃木福富町
735番地211
TEL.0852-32-1616
URL.
<http://www.matsukei.co.jp/>

1970年に地域のコンピュータ室として旧松江計算センター設立。富士通(株)の山陰バックアップセンターとしてサポートや医療事務のオンラインサービスを担う。1997年現社名に変更。2002年(株)テクノプロジェクトのグループ企業として事業開始。ISO9001、ISMS(2003年)、プライバシーマーク(2005年)取得。2009年から社屋改築、マツケイデータセンターによるサービス開始。

—今年度から二つの企業のCEOとしてご活躍ですが、経営する上で何が大切だと感じていらっしゃいますか？

社員が常に、自ら勉強し続けるような、社風作りを目指しています。テクノプロジェクトでは、高度な情報処理資格の取得を会社全体で推進しており、現在社員1人当たりの資格保有は2.5個です。技術革新の速いITビジネスの中では、常に新しい知識・スキルが求められます。ベテランのエンジニアであっても、自己研鑽を怠ればすぐに取り残される世界です。経験豊富な社員が新しい技術を身に付け、最先端のプロジェクトで活躍することを願っています。

—8月に「Ruby業務システム開発コンソーシアムの結成」としてメディアで報じられました。これは他社と共に行うプロジェクトのようですが、詳細を教えてください。

テクノプロジェクト・マツケイと(株)マイティネット(広島市)、(株)アクトシステムズ(福山市)が、Rubyによる業務アプリケーション開発プラットフォームの開発を行うもので、来年から運用開始の予定です。これにより、各社で働く約800人のプログラマーがRubyを使って短期間にソフト開発をできるようにするのが目的です。Rubyは今までウェブを中心に普及してきましたが、業務システムをRubyで構築することにより、ビジネスの可能性が広がっていきます。そのためには、Rubyでプログラムが組めるエンジニアを早く、多く育成する必要があるという訳です。

—OSSやRubyについて、吉岡さんはどう考えていらっしゃいますか？

今までのITとその関連のビジネスは、アメリカ主導型であり、メーカーの技術の差が価格を決め、業績の優劣が決まってきました。しかし、広くPCが世の中に普及した現在では、技術の大きな差別化が難しくなりました。人々は速さとコストダウンを求め始めました。こうした社会のニーズを満たすためRubyは今後、さらに必要とされて行くでしょう。

インタビュアー：沼田

■ 今後の予定

- 11月20日(金) 18:30～ 第45回オープンソースサロン
- 11月28日(土) 13:30～ Matsue.rb 公開セミナー

会場は松江テルサ別館「オープンソースラボ」です。より詳しい内容については、下記のWebサイトにてご確認ください。

<http://www.shimane-oss.org/>

■ 編者後記

ニュースレターの発行開始から1年が経過した事を記念して、紙面のデザインを変更してみました。

加えて、「会員企業紹介」という新企画も始めました。これにより、同じOSSに関心のある法人会員の企業をもっと身近に感じていただければいいなと考えています。これから法人会員の企業の皆様のもとへ素敵な沼田さんがインタビュアーとして行く事になりますが、沼田さんに見とれていないで取材にご協力をお願いいたします。

このニュースレターはOpenOffice.orgで作られています。



第五号(2009.10.27)



■ オープンソースサロン

・第41回オープンソースサロン/島根大学プロジェクト研究会(2009年7月17日(金))
最初に、ファーエンドテクノロジー株式会社の前田氏による『Ruby製オープンソースCMS「Radiant CMS」の紹介と書籍「入門Radiant CMS」ができるまで』の発表がありました。Radiant CMSは非常にシンプルで、既存ホームページの移行が簡単にできるという特徴を分かりやすく説明していただきました。
次は、国連大学マーストリヒト技術革新経済研究所のRuediger Glott氏とKirsten Haaland氏による「Open Source and Regional Promotion」の発表がありました。人々および企業がどのようにOSSと関わっているかについて、データの裏付けを基に示していただきました。

・第42回オープンソースサロン(2009年7月31日(金))
最初に、島根大学総務部総務課の宮脇貴子氏による「島根大学評価情報データベースシステムのRubyによる開発」の発表がありました。Rubyによりシステム構築は「幸せ」だったのかもしれませんが、システムの名前から察すると大学の先生方は大変?!になったのかもしれない(笑)。
次は総会記念講演として、クックパッド株式会社最高技術責任者の橋本健太氏による「日本最大のRailsサイト、クックパッドのものづくり」の発表がありました。何故Rubyでサイトを構築することになったのかから日本最大の料理レシピサイトへ成長させるための秘訣など、盛りだくさんの内容でお話していただきました。

・第43回オープンソースサロン(2009年9月18日(金))
今回のテーマは、国立情報学研究所情報社会関連研究系教授の新井紀子氏と内閣府認証特定非営利活動法人コモンズネット副理事長の松本太佳司氏による「次世代の情報共有基盤システムとオープンソース」についての発表がありました。発想豊かなアイデアを実現できるネットコモンズというCMSを開発したが、使いこなしていただけないといった不満を楽しそうに漏らされていた新井氏が非常に印象的でした。

オープンソースサロンは、毎回多彩なゲストにより、ためになり(?)かつ楽しい話題満載の発表会です(しかも無料!!!)。ぜひとも多くの方々に見に来ていただきたいです。(倉橋)

■ 「松江オープンソース活用ビジネスプランコンテスト2010」の実施について

昨年度初めて開催した「松江オープンソース活用ビジネスプランコンテスト」を今年も開催致します!今年度の応募締め切りは来年1月12日(火)、最終審査会は2月19日(金)を予定しております。

昨年度と同様に、ビジネス活用部門と学生部門の2部門を募集いたします。オープンソースはこういうビジネス展開にも応用できるのではないかと、こんなことが実現できたらおもしろい、というアイデアがありましたら、この機会に是非応募してみませんか?募集要項も近日公開予定!皆様からのご応募をお待ちしております。(丹生)

■ RubyWorld Conferenceを松江で開催！

[RubyWorld Conference開催実行委員会事務局 前田 修吾]

2009年9月7日～8日の2日間、くにびきメッセにてRubyWorld Conferenceを開催いたしました。おかげさまで、延べ1092名の方々にご来場いただき、好評のうちに閉会となりました。ご報告が遅くなりましたが、しまねOSS協議会の皆様には様々なご協力をいただき、ありがとうございます。あらためて感謝申し上げます。

海外からはTim Brayさんをはじめとするたくさんの著名な講演者の方々に参加いただき、東京でもめったにお聞きできないような貴重なお話を聞くことができました。Tim Brayさんにはブログでもカンファレンスについてご紹介いただきました。

<http://www.tbray.org/ongoing/When/200x/2009/09/13/Shimane-Rubyworld-Conference>

個人的には、Rails開発者のJeremy Kemperさんの講演での、Rubyコミュニティへのメッセージが心に残っています。

また、まつもとさんをはじめとする国内の講演者の方々からも、色々な興味深いお話をお聞きできました。中でも、開催地リレートークではたくさんのユニークな事例・取り組みをご紹介いただき、県外・国外から情報を受け取るだけでなく、島根からも全国・世界に向けて情報発信できるのだということを示すことができたのではないかと思います。

今回の経験を糧に、来年以降も継続して開催して行きたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いたします。

[スタッフによるコメント]

昨年の秋頃からRubyWorld Conferenceの開催準備は始まりました。Rubyアソシエーションの前田修吾さんを中心に、日程調整、会場選定、プログラム決定、告知、当日のシナリオ作成など多岐にわたる準備作業。こうした中で、実行委員会メンバーのこだわりは、企画・運営を外部委託することなく、できる限り自分たちの手で成し遂げることでした。Rubyアソシエーションを軸としたチーム島根（産学官）の「ありのままの力」で、世界に向けたイベントを開催することは、大きな挑戦であり、もちろんリスクもありました。しかし、この壁を見事に乗り越えた瞬間、今までにない達成感を私たちは共有できたのです。講演者、来場者、スタッフのみんなのRubyへの思いが共鳴したRubyWorld Conferenceでした！（杉原）



協議会にとっても念願であった国際会議の開催。1年以上前から準備を始め、今回成功裏に開催することができました。関係者の皆様、まずはお疲れ様でした。当方も、JETRO松江さんと一緒に海外スピーカーの調整を担当、直前まで「いろいろ」とありましたが、海外の方々にもとても喜んでいただけたので良かったです。実際の会議では、2日目の「開催地リレートーク」での発表を興味深く聞きました。大学、自治体、Rubyを活用したビジネスを展開する企業さんにより、Rubyビジネスは県内企業さんへの「横展開」が始まっていることを実感。今後、さらにプレーヤーが増えてくると、さらなる横展開、全国展開にも期待です！皆様、今後も引き続き、島根・松江からRubyをはじめとして、オープンソースを盛り上げていきましょう。（丹生）

異動となって半年。まだまだ、休業中の身ではありますが、RubyWorld Conference 2009のお手伝いをさせていただきました。

当日会場の担当は、メッセ5階B会場。両日とも、午前中まったり(^o^)とした雰囲気の中で午後は一変！メッセ5階は大変な人ごみと化していました。

イベント通じて、各企業の取り組みやコミュニティの活動を拝見させていただきました。Rubyをとりまく環境が大きく動いていることを目の当たりにし、この機会に大きなウェーブに乗り、他の地域との競争と協働を通じて、島根を元気にできればと思った次第です！（岩佐）

■ 会員企業紹介(第1回)



株式会社テクノプロジェクト・株式会社マツケイ
代表取締役社長 吉岡 宏 様

—吉岡さんはいつから、どんなきっかけでIT企業に就職されたのですか？

大学で電気工学を学び、昭和51年に東京でソフトウェア開発の企業に就職しました。当時、コンピュータと言えば、まだハードウェアにウェイトが置かれていました。この頃はオイルショック直後のため就職難の時代で、そんな時代だったからこそ、将来性のある分野で仕事をしようと、ソフトウェア開発という新しい分野を選びました。もし、景気が良い時期だったら、社名を見て安易に自分の職業を決めていたかも知れません。その後、島根に帰郷し、昭和59年からテクノプロジェクトに入社、金融や介護保険など、社会的なシステムの開発に携わりました。金融の勘定系システムは「システムが止まると決済ができなくなり、企業が倒産する」と言われるような社会インフラのシステムでしたから、プレッシャーと共にやり甲斐も大きなものでした。就職してから35年間、この業界でやってきました。

—景気が悪い時期に就職という状況は、今の若い人たちと似ていますね。仕事をする中で、楽しいことは何ですか？

システムの開発は、半年とか1年、長くて2年です。短期的に複数の企業の人たちが集まってプロジェクトチームを組み、一人ではできない大きな仕事をチームで力を合わせてシステムを造り上げるのです。その中には、クリエイティブな創造力を必要とする設計工程もあれば、こつこつとプログラムを組み、テストを淡々と行なう工程もあります。プロジェクトが終わった時の達成感には本当に楽しく充実感があります。特に印象に残っているのが平成元年の金融システム開発で、島根県内に400店舗あるJAさんのシステムを2000人月、2年半かけて開発し、県内のエンジニアだけではならず、大阪・北陸・広島・鹿児島からも来てもらい、最盛期で90人のエンジニアが作業していました。私は島根県のリーダーとして携わり、困難も多かった分、完成したときの達成感が忘れられません。



〒690-0826
松江市学園南2丁目
10番14号タイムプラザビル
TEL.0852-32-1140

URL:<http://www.tpj.co.jp/>
1984年3月1日にSE会社として設立。営業の基盤は島根県とその周辺だが、得意分野については全国レベルで展開を行っている。山陰のSW企業では初めて品質管理・保証の国際規格ISO9001(1997年)・環境の国際規格ISO14001(1998年)を認証取得。1999年「ライバシマーク使用許諾事業者」、2000年「システムインテグレーション認定」。2001年、関連会社、国信方舟ソフトウェア有限公司(SicNoah/中国蘇州市)設立。